



三重県立志摩病院における 特定ケア看護師としての役割と活動

三重県立志摩病院 特定ケア看護師 松尾亜紀

特定ケア看護師を目指したきっかけ

三重県立志摩病院は、2016年にG7伊勢志摩サミットが開催された地域であり、美しく豊かな海に恵まれた志摩地域唯一の総合病院です。一般病床236床、精神科病床100床を有する総合病院として、救急総合診療を中心に、地域の病院・診療所や高次機能病院と密接な連携のもと地域医療を展開しています。

当地域の高齢化率は37%で超高齢化社会に直面しています。入院患者は65歳以上の高齢者が全体の65%を占めており、さらに75歳以上の後期高齢者が約45%に達しています。当院が抱える地域は、寝たきりの高齢者や老々介護、高齢者の独居が増える中、医師・看護師不足が深刻化しています。

当院は、医師不足のため患者さんが急変した際、医師が手術中であつたり、外来診察中などですぐに対応できません。また、救急外来は内科医師一人、外科系医師一人、看護師一人の体制であり複数の患者さんを診る際、早期に対応できない現状があります。そのような状況の中で看護師は、一人に対応することへの不安を抱えながら仕事に取り組まなければなりません。また、患者さん・家族の不安にもつながってしまう可能性もあります。そこで当院に特定ケア看護師がいれば、患者さんの状態をいち早く観察し、総合的にアセスメントすることで、正確に医師へ報告することができます。その結果、早期に対応が可能となり、必要な処置が実施できるのではないかと考えました。また、担当看護師にも患者さんの状態やアセスメント内容を

報告し共有することで、患者さんに何が必要なのかを一緒に考え実施していくことができそうです。そうすることで、看護師が安心して看護ができ、さらにスタッフ指導にもつながると考えました。またそれらは、患者さん・家族の安心感にもつながると考え、特定ケア看護師を目指しました。

日常の業務・活動の効果

私はNDC研修センター卒業後、内科・外科・整形外科・救急外来を医師のもとで研修させていただきました。現在、整形外科・救急外来で活動しています。

研修当初、当院では特定ケア看護師の導入が初めてだったため、「どのような資格なのか?」「何ができるのか?」など、スタッフの理解をどうすれば得られるのか悩みました。そこで、自分の働いている姿をみんなに見てもらおうと特定ケア看護師の存在を知ってもらおうと考えました。そのため、積極的に担当看護師と患者さんのカンファレンスを行っています。患者さんの状態・治療内容を共有し、疑問に思ったことは共に考えることで病態の理解が深まったと実感してもらっています。また、医師ともカンファレンスシェアメントした治療方針をスタッフに伝えることで、退院に向けて何が必要か、これまで以上に考え、指導ができるようになったと思います。このようなことを積み重ね、現在では、病棟スタッフから患者さんに異変や急変があつた場合や、慢性疾患のコントロールなどに関してファーストコールで連絡をもらい



情報収集



間崎島巡回診療

対応させてもらっています。

また、患者さんのベットサイドへ行き、身体所見をとり、血液データなどを確認し異常の早期発見に努め、早期に治療介入できるように努めています。活動を通して医師からも「この患者さんお願いするね」と声をかけていただくことも多くなりました。

特定ケア看護師として、疾患に対する知識や技術に関しては、まだまだ自己研鑽が必要です。しかし、患者さんの疾患だけをみるのではなく、患者さんの生活背景など全体像を看ることを忘れず活動していきたいと思っています。

離島の巡回診療について in 間崎島

私は月に2回船で10分程の人口約81人、真珠養殖で有名な間崎島という離島の巡回診療に同行しています。間崎島は、高齢化率70%を超える超高齢化地域となっており、高齢者の独居や、高齢夫婦で暮らしている家庭がほとんどで過疎化が進んでいます。もちろんこの島には、診療所はなく、常勤の医師・看護師もいません。島民の皆さまはとても健康的で元気ですが、高血圧、糖尿病、喘息など基礎疾患を抱えている方がほとんどです。また合併症を伴っている患者さんも多くいます。私が巡回診療に同行し感じたことは、巡回診療では特定行為による技術的な面を実施することはほとんどありません。患

者さんの症状から身体所見をとりアセスメントし、患者さんの疾患や病態を予測する臨床推論が重要であると感じました。また、患者さんから「血圧が高い日がある」、「血糖が高い」などの相談を受けることが多くあります。このような慢性疾患に対する生活指導も重要であることを感じました。私たち特定ケア看護師は、診療の「診る」と、看護の「看る」両方の眼で「みる」ことのできる看護師です。両方の視点から指導ができれば、島民の皆様が住み慣れた島で長く健康で過ごせるのではないかと思います。

今後の課題

特定ケア看護師として活動する中で、多職種との協働・連携も重要であると感じました。

また、自ら進んでそのような場を作り、調整していくことも私たちの役割だと思います。看護の面での情報と、多職種からの情報を共有することで、患者の全体像を把握することができます。そして患者さんの問題点を共に理解し、チーム医療としてさらに活動することで今以上に患者さんに寄り添える看護ができると思います。それはまた、病院全体の看護の質・向上につながると思います。まだまだ未熟な部分が多いですが、特定ケア看護師として患者さんに信頼される看護師に成長していきたいと思っています。